

練馬区国民健康保険データヘルス計画 中間見直しについて

(データ分析の暫定版)

令和2年10月30日

練馬区国保年金課

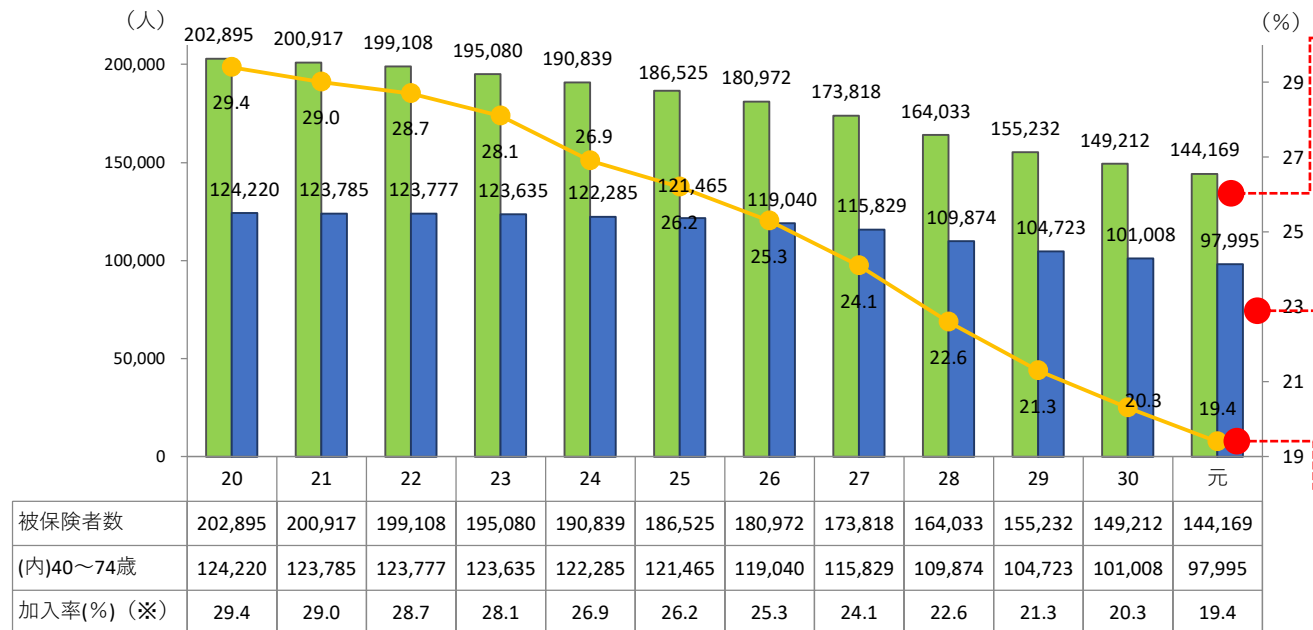
(出典)・ねりまの国保 令和2年度版
・KDB帳票

- ・この資料は、令和2年10月時点のものであり、今後、内容を変更、修正する場合があります。
- ・この資料は、二次利用・引用・転載をすることはできません。

1 被保険者の特性

被保険者数は減少傾向であり、国保加入率も年々低下している。

●被保険者数の推移



被保険者数は20年度から28.9%減少している。

特定健診対象者数(40～74歳)は20年度から21.1%減少している。

加入率は20年度から元年度の間に10.0ポイント減少している。

※ 加入率は、練馬区の人口に占める国民健康保険被保険者の割合

■ 被保険者数
■ (内)40～74歳
● 加入率(%) (※)

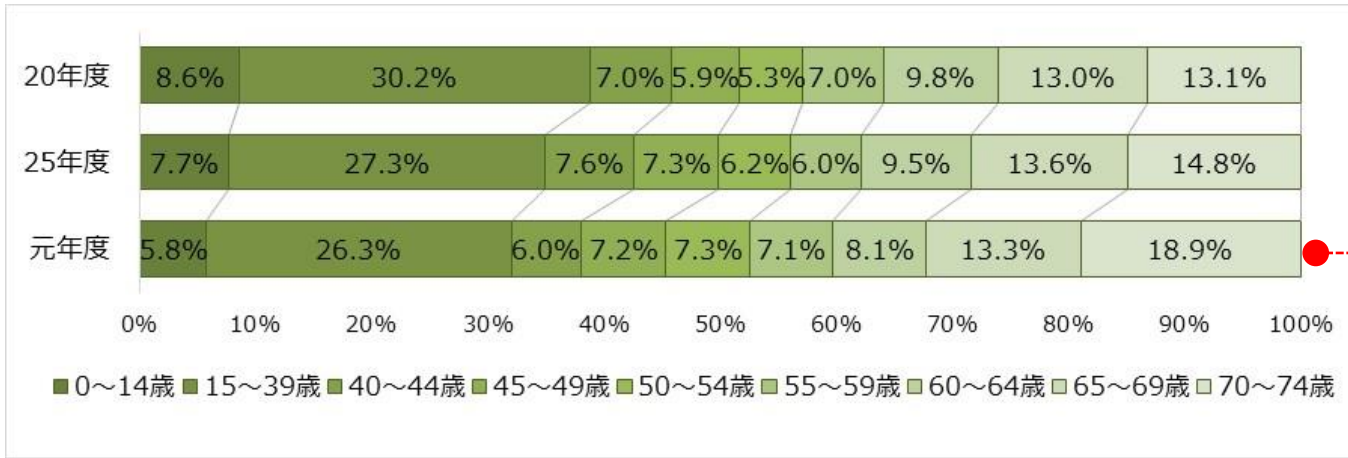
●資格取得および喪失の理由別内訳（元年度）

被保険者増	33,709	資格取得理由				
		社保離脱	転入	出生	後期離脱	その他
		18,715	13,076	461	1	1,456
被保険者減	38,752	資格喪失理由				
		社保加入	転出	死亡	後期加入	その他
		19,216	10,739	790	4,680	3,327
差引	▲ 5,043	▲ 501	2,337	▲ 329	▲ 4,679	▲ 1,871

資格取得および喪失の差を理由別に見ると、後期加入が最も多く、被保険者減少の最大の要因となっている。

前期高齢者(65～74歳)の構成割合が高くなっている。

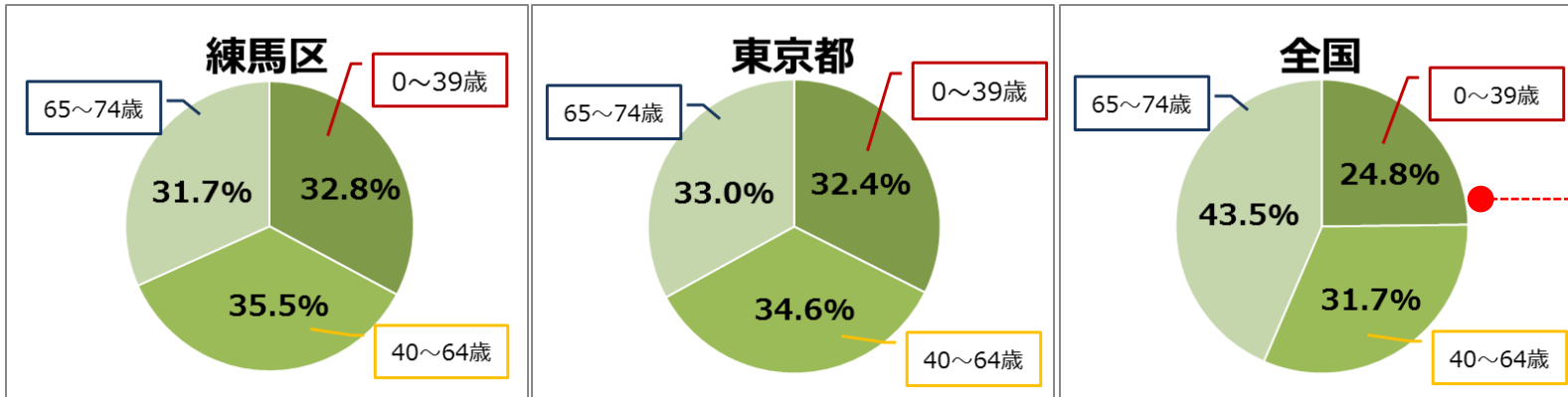
●被保険者の年齢階層別構成比推移



前期高齢者の割合は20年度から元年度の間に6.1ポイント増えている。
一方で0～39歳の割合は6.7ポイント減少し、少子高齢化の影響がみられる。

前期高齢者(65～74歳)は増加傾向だが、全国との比較では、構成割合は低い。

●年齢階層別の被保険者構成割合の比較 (元年度)



全国では65歳以上の被保険者の割合が高い。

被保険者平均年齢 (元年度)	
練馬区	48.7歳
東京都	49.0歳
全国	52.9歳

練馬区の被保険者の平均年齢は東京都、全国と比べて低い。

2 医療費(全体・疾病別)の分析

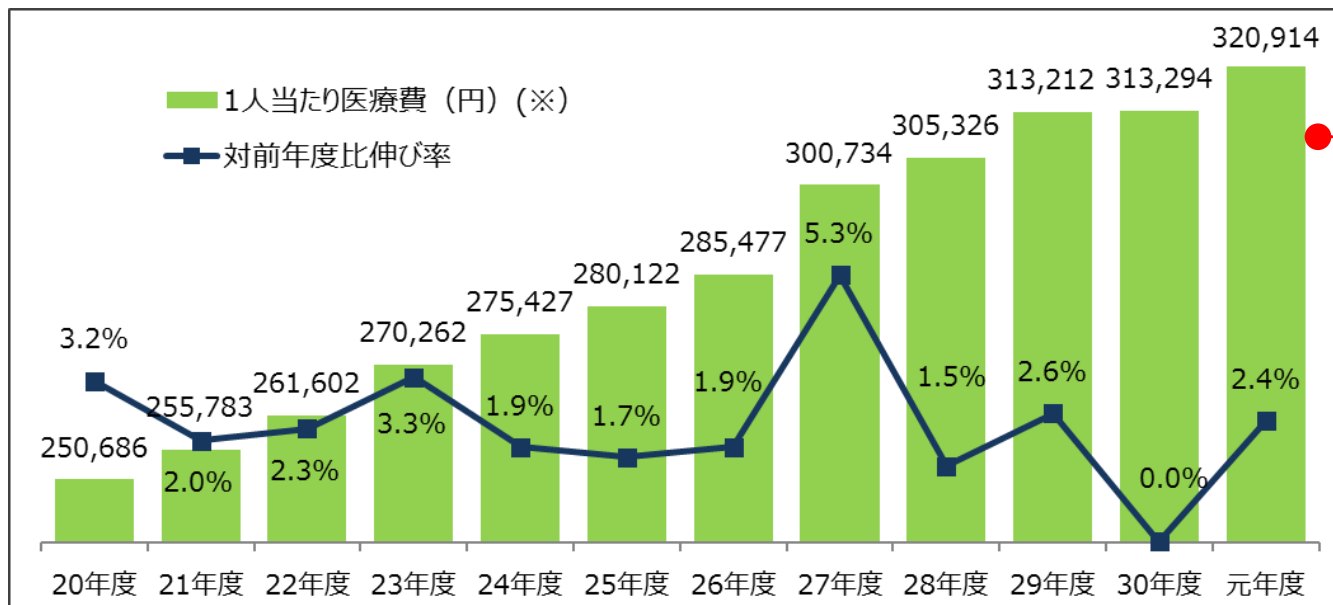
医療費総額は減少傾向であるが、一人当たりの医療費は増加している。

●医療費総額の推移



医療費総額は被保険者数の減少の影響等により、27年度を除き24年度以降減少している。

●一人当たり医療費・伸び率の推移



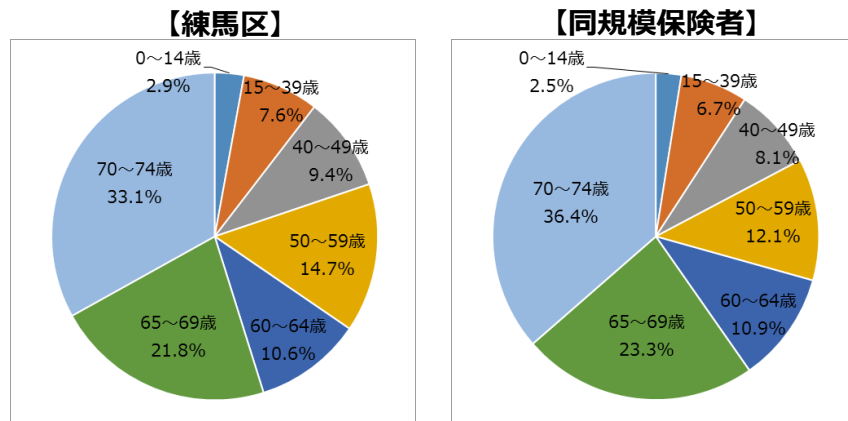
一人当たり医療費は毎年度増加しているが、全国平均より4万円前後低い。
対前年度比伸び率は上がり下がりを繰り返しており、全国国保と同じ傾向がある。

(参考)全国国保の一人当たり医療費・伸び率の推移

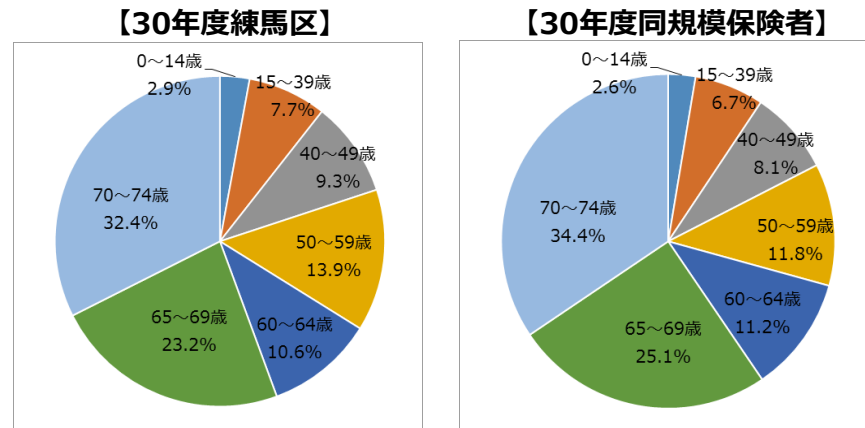
	26	27	28	29	30	元
一人当たり医療費(万円)	32.2	33.9	33.9	34.9	35.3	36.4
対前年度比伸び率(%)	2.8	5.1	0.1	3.0	1.3	3.0

医療費の約6割を前期高齢者(65～74歳)が占めている。

●医療費総額の年齢階層別構成比（元年度）



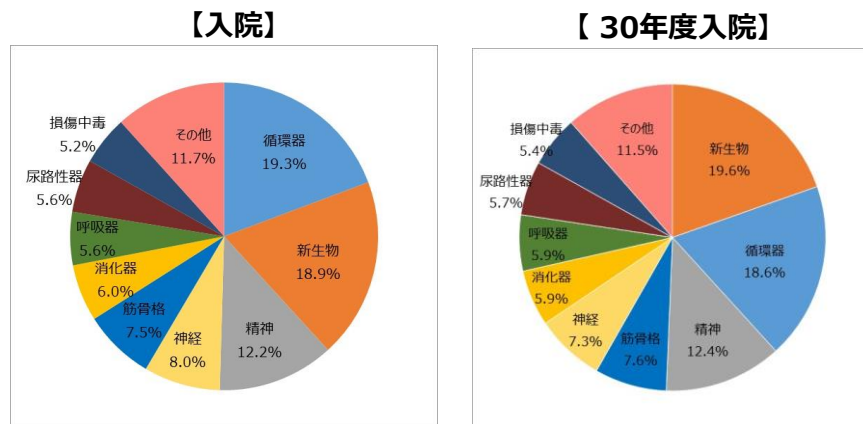
区の65～74歳の医療費の割合は54.9%で、同規模保険者の59.7%と比較すると低い。



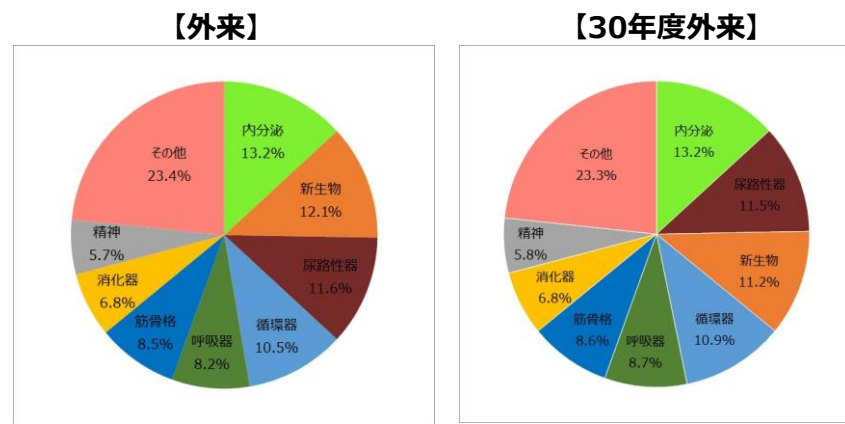
30年度と比較すると、練馬区、同規模保険者ともに0～64歳までの割合には大きな変化はないものの、65～69歳の割合が減少し、70～74歳の割合が増加している。

入院・外来ともに、生活習慣病との関係性が強いと考えられる疾病の医療費の割合が高くなっている。

●疾病大分類別医療費（入院・外来）の構成（元年度）



入院では元年度、30年度ともに「循環器」「新生物」「精神」で全体の約5割となっている。



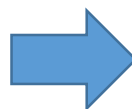
外来では元年度、30年度ともに疾病の順位も割合もほとんど変わらない。

「慢性腎不全(透析あり)」の医療費が、患者数は少ないが最も高い構成比を占めている。

●医療費(全体)に占める割合の高い疾病

平成26年度

1位	慢性腎不全（透析あり） ※2型糖尿病による人工透析患者数 274名	6.1%
2位	高血圧症	5.0%
3位	糖尿病	4.9%
4位	統合失調症	4.6%
5位	関節疾患	3.4%
6位	脂質異常症	3.2%
7位	うつ病	2.6%
8位	大腸がん	2.1%
9位	不整脈	1.8%
10位	脳梗塞	1.7%



令和元年度

1位	慢性腎不全（透析あり） ※2型糖尿病による人工透析患者数 259名	5.6%
2位	糖尿病	4.4%
3位	統合失調症	3.7%
4位	関節疾患	3.6%
5位	高血圧症	3.1%
6位	脂質異常症	2.6%
7位	肺がん	2.5%
8位	うつ病	2.5%
9位	不整脈	2.2%
10位	乳がん	1.8%

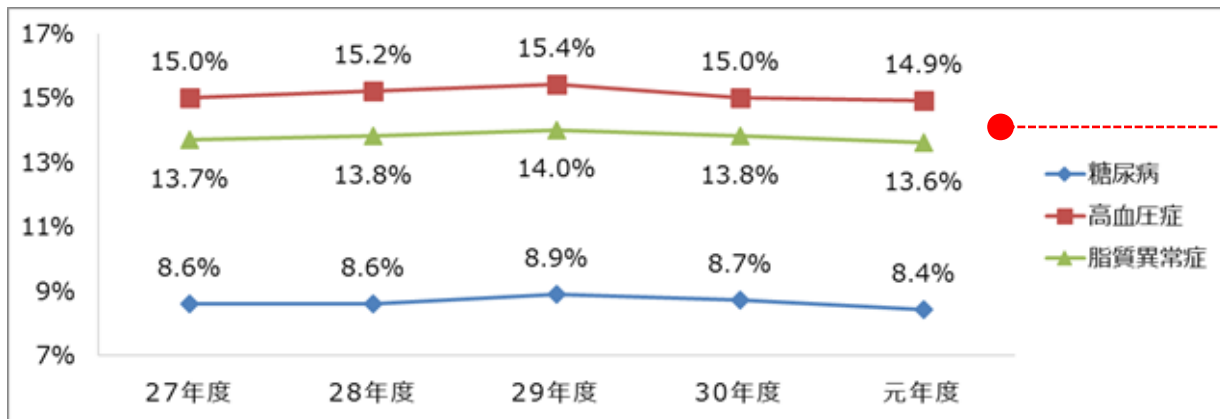
26年度と比較すると、1位は「慢性腎不全(透析あり)」で変わらない。

6位までは同じ疾病だが、元年度は「大腸がん」が消え、7位に「肺がん」、10位に「乳がん」が入っている。

3 生活習慣病関係医療費の分析

いずれの疾病も患者数の割合は減少している。糖尿病患者のうち高血圧症・脂質異常症を併発している割合は約7割に上る。

●被保険者に占める糖尿病・高血圧症・脂質異常症患者数の割合の推移



いずれの患者数の割合も29年度をピークに、減少に転じている。

●患者千人当たり生活習慣病患者数・糖尿病性腎症患者数・人工透析患者数の比較

患者千人当たり生活習慣病患者数の比較

	区	都	同規模	全国
糖尿病	195.7人	194.7人	216.7人	224.9人
高血圧症	341.6人	339.8人	391.1人	411.5人
脂質異常症	314.2人	310.5人	346.9人	360.0人

糖尿病、高血圧症、脂質異常症の患者数はいずれも同規模や全国平均と比べて少なく、東京都平均とほぼ同じである。

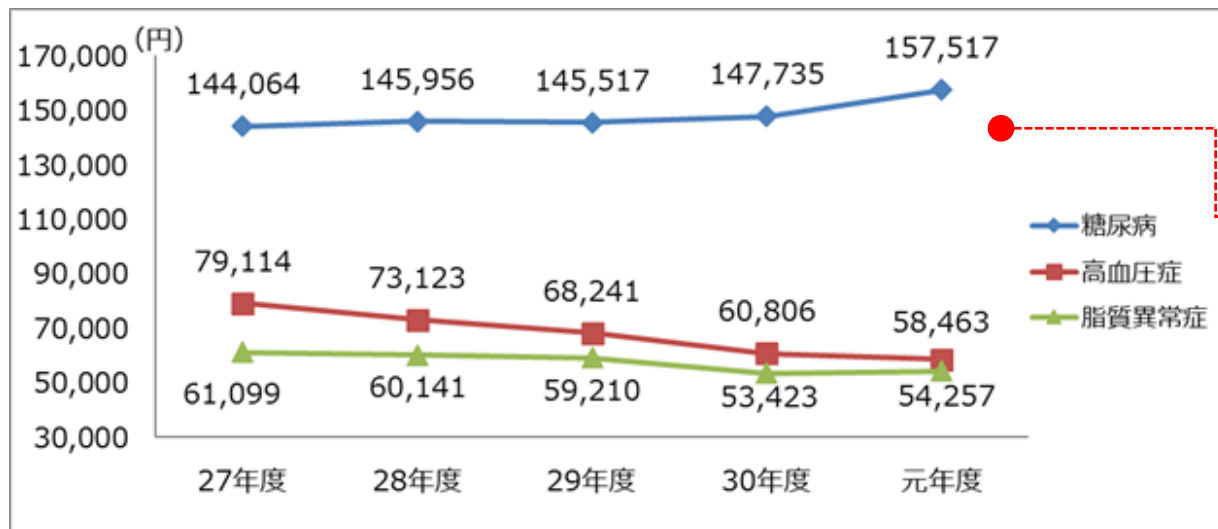
●糖尿病患者のその他の生活習慣病併発割合

脂質異常症	高血圧症	高尿酸血症	虚血性心疾患	脳血管疾患
69.8%	69.3%	18.9%	18.8%	16.1%

糖尿病患者は、他の生活習慣病を併発している割合が高く、高血圧症と脂質異常症の併発割合は約7割となっている。

糖尿病の「一人当たり医療費」は増加傾向である。

●糖尿病・高血圧症・脂質異常症の一人当たり医療費の推移



高血圧症、脂質異常症の一人当たり医療費は減少しているが、糖尿病は上昇している。
糖尿病と高血圧症、脂質異常症の医療費の開きは3倍近くになっている。

都・同規模・全国と比較し、糖尿病性腎症患者数も人工透析患者数も高い割合である。

患者千人当たり糖尿病性腎症患者数の比較

	区	都	同規模	全国
元年度	26.0人	23.7人	21.7人	20.6人
28年度	24.3人	19.3人	19.9人	17.7人

患者千人当たり人工透析患者数の比較

	区	都	同規模	全国
元年度	7.7人	7.5人	7.1人	6.7人
28年度	6.9人	5.8人	6.7人	6.0人

28年度と比較すると、区・都・同規模・全国すべてにおいて糖尿病性腎症患者および人工透析患者の割合が上がっている。

糖尿病の合併症による人工透析の患者一人当たりの医療費は、600万円を超えている。

●糖尿病の合併症による人工透析の患者数・一人当たり医療費・医療費の推移

	患者数(人)	1人当たり医療費(円)	医療費(円)
24年度	266	5,711,085	1,519,148,730
25年度	273	6,035,182	1,647,604,550
26年度	274	6,060,167	1,660,485,870
27年度	275	6,203,020	1,705,830,510
28年度	267	6,532,030	1,744,051,890
29年度	262	6,874,075	1,801,007,700
30年度	264	6,606,086	1,744,006,600
元年度	259	6,404,181	1,658,682,870

人工透析患者数はほぼ横ばい。被保険者の出入りがあるため、患者数の増減をもって取組の効果を測るのは難しい。

一人当たり医療費は29年度をピークに減少傾向にある。

糖尿病の合併症による人工透析患者の約8割が男性で、加齢とともに患者の割合が高くなる傾向がある。

●新たに糖尿病の合併症による人工透析患者となった者の内訳

	人工透析患者数	新規透析患者数内訳		
			当該年度に透析開始	国保加入
29年3月現在	267人	58人	44人(75.9%)	14人(24.1%)
30年3月現在	262人	51人	35人(68.6%)	16人(31.4%)
31年3月現在	264人	56人	30人(53.6%)	26人(46.4%)
2年3月現在	259人	39人	25人(64.1%)	14人(35.9%)

新たに人工透析患者となった者のうち、国保加入(人工透析をしている状態で他の医療保険から国保に加入した者)の割合が増加している。

●糖尿病の合併症による人工透析患者の性別・年齢階層別の状況(元年度)

	計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
39歳以下	1	0.4%	1	0.5%	0	0.0%
40～44歳	6	2.3%	5	2.4%	1	2.0%
45～49歳	6	2.3%	6	2.9%	0	0.0%
50～54歳	15	5.8%	13	6.2%	2	4.0%
55～59歳	36	13.9%	34	16.3%	2	4.0%
60～64歳	31	12.0%	28	13.4%	3	6.0%
65～69歳	74	28.6%	61	29.2%	13	26.0%
70～74歳	90	34.7%	61	29.2%	29	58.0%
計	259	100%	209	100%	50	100%

加齢とともに患者の割合が高くなり、65歳以上が6割を占める。

●新たに糖尿病の合併症による人工透析患者となった者の性別・年齢階層別の状況(元年度)

	計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
39歳以下	1	4.0%	1	4.8%	0	0.0%
40～44歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
45～49歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50～54歳	3	12.0%	3	14.3%	0	0.0%
55～59歳	3	12.0%	3	14.3%	0	0.0%
60～64歳	3	12.0%	2	9.5%	1	25.0%
65～69歳	5	20.0%	4	19.0%	1	25.0%
70～74歳	10	40.0%	8	38.1%	2	50.0%
計	25	100%	21	100%	4	100%

新規人工透析導入患者のうち、4割が70歳以上となっている。

要介護認定者は、生活習慣病に起因する疾病の有病率の割合が高い。

●要介護認定者の有病状況

	26年度		元年度		26年度→元年度 2号被保険者 有病率の変化
	全体	(再掲) 2号被保険者 (40~64歳)	全体	(再掲) 2号被保険者 (40~64歳)	
心臓病	58.3%	28.8%	60.3%	26.5%	▲ 2.3
筋・骨格	51.2%	23.2%	53.9%	22.3%	▲ 0.9
脳疾患	25.7%	21.4%	23.7%	19.5%	▲ 1.9
精神疾患	35.6%	16.5%	38.0%	17.3%	0.8
糖尿病	24.0%	15.9%	24.7%	11.8%	▲ 4.1
(再掲) 糖尿病合併症	4.0%	4.8%	3.7%	3.2%	▲ 1.6
がん	11.7%	7.9%	12.5%	7.0%	▲ 0.9
難病	4.0%	5.9%	4.2%	6.8%	0.9
その他	59.2%	30.9%	61.0%	28.3%	▲ 2.6

全体では、生活習慣病に起因する心臓病、脳疾患、糖尿病（合併症を含む）の有病者の割合は高く、元年度においても大きな変化は見られない。

介護保険第2号被保険者（40~64歳）では、26年度と比較し、元年度はいずれの疾病も有病率が減少している。

4 特定健診 受診率に関する分析

グループ別に見ると、受診期間が遅いグループほど、受診率が高くなっている。

●特定健診 グループごとの受診期間と受診率の比較①（H29～R元）

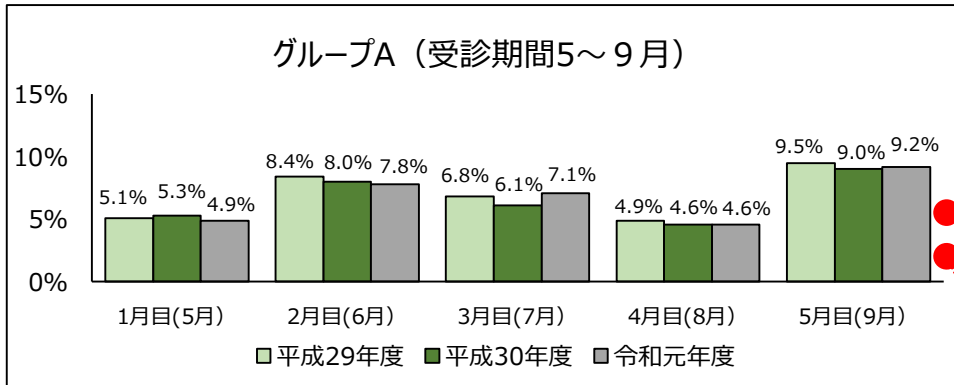
グループ	誕生月	受診期間	H29受診率 (39.5%)	H30受診率 (38.5%)	R元受診率 (38.3%)
A	4～7月生	5～9月	38.7%	37.5%	37.9%
B	8～11月生	6～10月	39.8%	38.7%	38.3%
C	12～3月生	7～11月	39.9%	39.2%	38.8%

※H29年度から上記の体制で実施。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、受診期間はすべて7～11月。

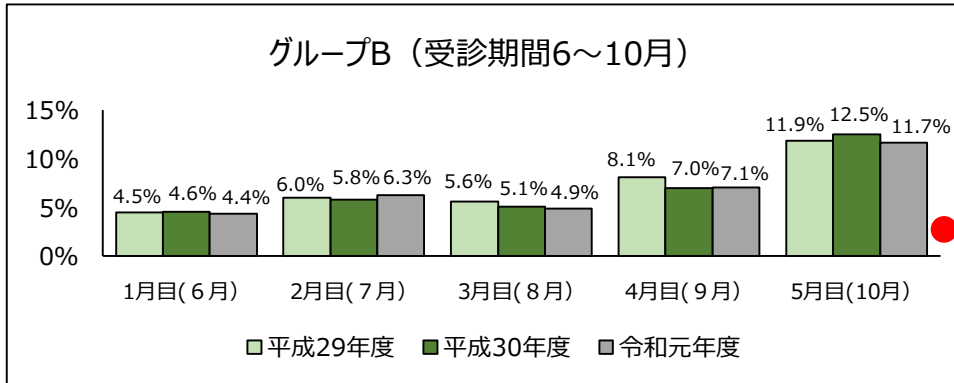
※受診率は（受診者数 ÷ 受診券発行枚数）により算出。

各グループの月別受診率を見ると、概ね受診開始月が最も低く、受診最終月が最も高い。

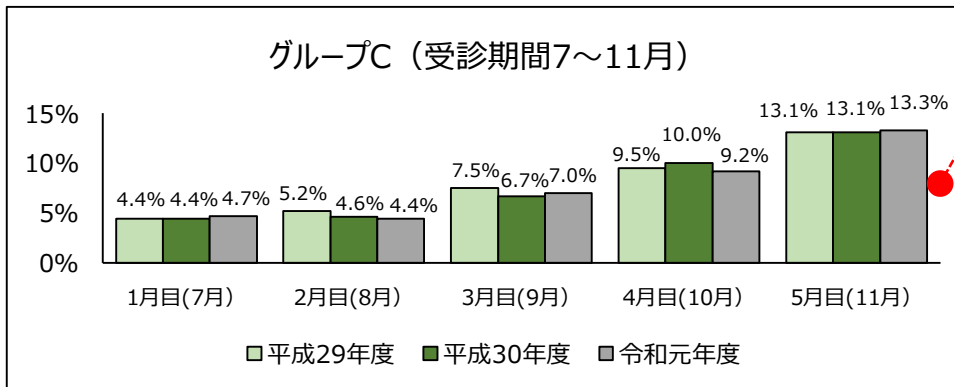
●特定健診 グループごとの受診期間と受診率の比較②（H29～R元）



グループAの1月目～2月目の受診率は他の2グループより良いが、受診最終月(9月)とその前月(8月)の駆け込み受診が少ない。



受診率は7月から8月にかけて下がり、9月以降は上がる傾向がある。



いずれの年代も受診率は下がっているが、特に60代以上の女性の低下率が大きい。

●特定健診 年代別（60歳以上）・性別受診率の経年比較（H27～R元）

	区分	H27	H28	H29	H30	R01	27→01
(A)	男（60～64歳）	38.1%	37.2%	37.3%	37.3%	36.8%	▲ 1.3
(B)	男（65～69歳）	44.0%	43.5%	44.0%	42.4%	41.4%	▲ 2.6
(C)	男（70～74歳）	51.6%	50.8%	50.0%	49.3%	49.2%	▲ 2.4
(D)	女（60～64歳）	49.2%	47.8%	47.3%	46.3%	45.9%	▲ 3.3
(E)	女（65～69歳）	55.3%	54.9%	54.5%	53.3%	51.8%	▲ 3.5
(F)	女（70～74歳）	63.8%	61.6%	61.3%	59.1%	58.2%	● ▲ 5.6
(G)	全体	43.8%	43.0%	43.3%	42.3%	42.2%	▲ 1.6
(H)	64歳未満	34.3%	33.4%	33.6%	33.0%	33.2%	▲ 1.1
(I)	65歳以上	54.3%	53.4%	53.4%	52.1%	51.4%	▲ 2.9

どの年代も男性より女性の方が受診率が高い。
…(A)～(F)

64歳未満の受診率は28年度以降、ほとんど変化がない。…(H)

男性よりも女性の受診率の落ち込みが大きく、70～74歳では5年間で5.6ポイントも下がっている。…(F)

国保の加入率は60歳以上になると急に上昇し、前期高齢者では約65%(4.7万人)が国保に加入している。人数も多く、受診率も元々高い層であるため、落ち込みの大きさが全体受診率を下げる要因となっている。

町別の順位は経年で見ても概ね似かよっている。

●元年度特定健診 町名別分析（全体・男女別受診率、世帯人口等） ※受診率上位1～10位と下位1～10位を表示

町名	(A)		(B)		(C)		(D)		(E)		(F)		(G)
	健診全体順位 ()は前年度順位	受診率	男性順位	受診率	女性順位	受診率	対象者 平均年齢 順位(若い順)	対象者 平均年齢	受診者 平均年齢 順位(若い順)	受診者 平均年齢	一世帯あたり 人口順位 (多い順)	一世帯あたり 人口	
谷原	1 (3)	47.5%	2	43.0%	2	51.9%	26	61.22	17	63.34	1	2.32	6
光が丘	2 (2)	47.3%	1	43.0%	6	50.7%	45	64.01	45	65.96	11	2.16	10
春日町	3 (4)	47.0%	3	41.9%	3	51.6%	33	61.44	27	63.70	19	2.01	14
上石神井南町	4 (5)	47.0%	4	41.4%	1	52.4%	44	62.54	44	65.05	16	2.06	0
三原台	5 (1)	46.3%	5	41.0%	4	51.4%	25	61.10	43	64.48	4	2.25	3
中村	6 (8)	45.6%	6	40.3%	7	50.4%	41	61.74	32	63.87	22	1.98	5
東大泉	7 (6)	45.5%	7	40.0%	9	50.2%	34	61.46	34	63.96	24	1.95	29
大泉町	8 (12)	45.1%	8	39.6%	5	50.8%	30	61.32	33	63.91	5	2.24	6
田柄	9 (9)	44.4%	9	39.0%	10	49.3%	28	61.29	26	63.68	10	2.17	11
高野台	10 (7)	43.5%	10	38.4%	18	47.5%	42	61.78	42	64.40	15	2.06	6
土支田	36 (27)	39.2%	39	32.1%	30	45.9%	8	60.29	14	63.10	2	2.29	5
中村北	37 (40)	38.8%	33	33.5%	40	43.4%	10	60.33	23	63.58	39	1.71	8
旭丘	38 (41)	38.8%	38	33.2%	33	45.2%	7	60.29	4	62.41	44	1.52	4
練馬	39 (36)	38.7%	26	34.9%	42	42.4%	5	60.23	13	63.00	42	1.62	9
桜台	40 (38)	38.0%	40	31.6%	38	44.0%	22	61.02	11	62.97	33	1.80	10
立野町	41 (33)	36.7%	44	30.3%	44	42.0%	43	62.37	20	63.40	8	2.19	2
中村南	42 (37)	36.7%	42	30.4%	43	42.2%	18	60.77	22	63.43	26	1.94	5
羽沢	43 (45)	36.5%	45	29.3%	39	43.8%	9	60.30	21	63.40	38	1.73	1
豊玉上	44 (43)	36.5%	43	30.4%	41	42.8%	2	59.16	2	61.55	45	1.51	2
栄町	45 (44)	36.4%	41	31.4%	45	41.5%	1	57.82	1	61.31	41	1.63	5

- 上位1～5位 (A)全体受診率の最上位と最下位の差……11.1ポイント
- 上位6～10位 (B)男性受診率の最上位と最下位の差……13.7ポイント
- 下位6～10位 (C)女性受診率の最上位と最下位の差……10.9ポイント
- 下位1～5位 (D)対象者平均年齢の最上位と最下位の差……6.19才
- (E)受診者平均年齢の最上位と最下位の差……4.65才
- (F)一世帯あたり人口の最上位と最下位の差……0.81人

- ①町別の順位は経年で見ても概ね似かよっている。…(A)
- ②受診率の高い地域と低い地域は男女とも概ね同じである。…(B)(C)
- ③対象者や受診者の平均年齢が低い地域は受診率も低い傾向がある。…(D)(E)
- ④一世帯あたり人口が少ない地域は受診率も低い傾向がある。…(F)
- ⑤受診率と町内の医療機関数には相関関係があるとは言えない。…(G)

生活習慣病治療中の者の割合が増えている、ほぼ全ての年代において、健診受診率が低下している。

● 特定健診未受診者のうち生活習慣病治療中の者の割合

	区分	H28	H29	H30	R01	治療中・健診未受診者割合 H28→R01	健診受診率 H28→R01
(A)	男 (40~44歳)	22.0%	22.9%	22.5%	23.4%	1.4	0.8
(B)	男 (45~49歳)	23.3%	23.6%	23.4%	24.4%	1.1	-0.4
(C)	男 (50~54歳)	26.5%	26.4%	26.9%	27.5%	1.0	-1.4
(D)	男 (55~59歳)	31.0%	30.5%	31.2%	31.5%	0.5	-0.3
(E)	男 (60~64歳)	33.6%	33.8%	33.3%	35.2%	1.6	-0.4
(F)	男 (65~69歳)	36.6%	36.4%	37.8%	38.6%	2	-2.1
(G)	男 (70~74歳)	36.8%	37.1%	37.5%	37.6%	0.8	-1.6
(H)	女 (40~44歳)	27.8%	27.7%	27.7%	28.8%	1	0.2
(I)	女 (45~49歳)	29.2%	30.3%	30.6%	30.8%	1.6	-0.3
(J)	女 (50~54歳)	29.5%	30.7%	31.3%	32.2%	0.7	-1.6
(K)	女 (55~59歳)	30.9%	29.6%	31.0%	29.5%	-1.0	2
(L)	女 (60~64歳)	30.0%	30.5%	30.7%	31.6%	1.6	-1.9
(M)	女 (65~69歳)	28.9%	29.3%	30.2%	31.5%	2.6	-3.1
(N)	女 (70~74歳)	28.4%	28.3%	29.8%	30.5%	2.1	-3.4

40~44歳の男女を除くすべての年代において、生活習慣病治療中の者の割合が増えている世代では健診受診率が落ちている。

…(B)~(G)・(I)~(J)・(L)~(N)

治療中の者が減っている55~59歳女性では健診受診率が上がっている。
…(K)

健診受診率が大きく落ちている年代では、治療中の者の割合も大きく増えている。
…(F)(L)(M)(N)